



# 雄 郡 神 社

(ゆうぐんじんじゃ)



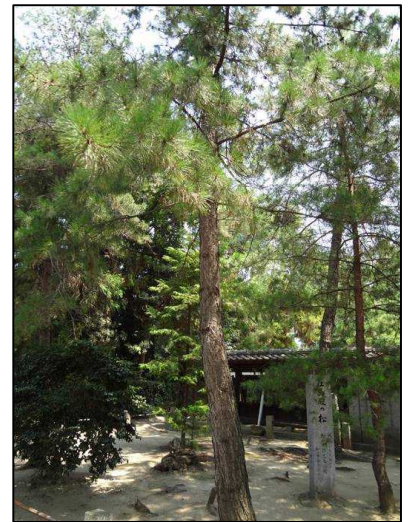
小栗にある雄郡神社は、双葉小学校の校区ではありませんが、校区の境目にあり、雄郡小・たちばな小・双葉小のある雄郡地区にとっては、大きな存在です。土居田にあった素鷲神社（現在の土居田本村公園あたりにありました）は、雄郡神社に合祀されています。

雄郡神社は「小栗の社（おぐりのやしろ）」とも言われており、この地域の氏神となっています。明治の初めに雄郡神社と呼び名が変わったと言われています。

おまつりしている神様（御祭神）は、天宇受賣命（あめのうずめのみこと）です。天照大神が天の岩屋戸にお隠れになったとき、世界を暗闇から救い出すために岩屋戸の前で神楽を舞った神様です。お多福さんの原型とも言われています。

また、宇佐八幡宮の分社でもあります。

1070年ごろに、正八幡神社（しょうはちまんじんじゃ）と名づけられたそうです。松山城を築いた加藤嘉明は、この正八幡神社をたいそう敬いました。加藤嘉明が境内に植えさせた松は、左馬殿の松（さまのすけのまつ）と言い、高さが25mほどの大きな木になっていたそうですが、昭和59年に枯れてしまいました。現在の松は、2代目です。



この境内には、「雄郡小学校発祥之地」の碑があります。明治10年に4学年4教室の雄群学校（おぐりがっこう）ができ、後にそれを記念して作成されました。雄群学校は、大正4年には今の小栗公園の敷地内に、2階建12教室の校舎を建設し移転をしました。昭和9年には、藤原学校と合併し、雄郡小学校として現在の位置に移転しています。双葉小学校は雄郡小学校から分かれてできた学校なので、双葉小学校のルーツはここにあると言ってもよいでしょう。



「おぐりむら」は、昔「小栗村」と書いていましたが、明治22年（1889年）の町村制が実施となってから「雄群村」となっています。大正15年に素鷲

や御幸などとともに松山市に合併したときに、雄群村という地名はなくなったようです。昭和8年には、学校名も雄郡尋常小学校と、「群」が「郡」に変わっています。

ここには、正岡子規の句碑もあります。



「うぶすなに幟立てたり稲の花」  
(うぶすなにのぼりたてたりいねのはな)

うぶすな（氏神）の祭りで幟が立てられ、秋空にはためいている。周囲の田では、重い稲穂が頭をたれ、快い風に左右に首を振っている。

「うぶすな」というのは氏神様のこと、雄郡神社は正岡家の氏神様でもありました。



「御所柿小栗祭の用意かな」  
(ごしょがきにおぐりまつりのよういかな)

御所柿が熟し始めた。それを合図のように小栗神社の祭りの用意も始まった。

明治28年10月に今出を訪れる途中に詠んだ句です。御所柿は、子規の好物でもありました。「柿くへば鐘が鳴るなり法隆寺」で詠まれている柿も御所柿です。今ではあまり生産されていない柿です。別名を小栗柿と言い、小栗町には、わずかですが木が残っているようです。

昭和16年3月9日に、NHK松山放送局は、雄郡小学校跡地（現在の小栗公園）に広島中央放送局管轄のローカル局として開局しました。戦後、雄郡神社境内で行われたラジオ体操を放送で流したこともあったそうです。この放送局は後に（昭和28年3月）、堀之内の現在地に移転をし、アンテナも昭和39年に針田へと移転しました。

#### 参考文献

「たちばなの郷」（平成15年 郷編集委員会）